学校だより　12 月号
相模原市立二本松小学校
2024.11.29　　Ｎｏ．10

にほんまつ

「かしこさ」
「やさしさ」
「たくましさ」

松っ子ブログ

「意識すること」で自分を変える

校長　松浦　隆志

大谷翔平選手が２年連続、３回目のＭＶＰを受賞しました。そんな大谷選手の小学生時代のことに興味が湧き、調べてみました。その中で特に心に残ったのが、大谷選手が小中学校時代、野球の指導者でもあった父とやりとりしていた「野球ノート」のことです。「野球ノート」は、試合での自分の状態を振り返り、何をすれば課題を克服できるかを考えるために、そして実際にその内容を行動に移すことができるようにと始めたものです。その「野球ノート」のやりとりを通して、父の徹さんが一貫して伝えたのは次の３つのことでした。

① 大きな声を出して元気よくプレイする
やみくもに声を出すのではなく、アウトカウント、ストライクカウント等の状況や打者の打球の傾向、相手が行ってきそうな作戦の予測等を仲間と共有するために大きな声を出して、元気よくプレイすること。そこにはコミュニケーションを大事にしてほしいという願いが込められている。

② キャッチボールを一生懸命に練習する
肩を温めるだけのキャッチボールではなく、自分が意図するところ、狙ったところに投げること。指にかかった縦回転のスピンが効いたボールを投げられるために、キャッチボールの段階から意識を高くもって投げることを求めた。

③ 一生懸命に走る
力を抜かずに最後まで全力で走ること。そのこと自体に意味があるが、その取り組む姿勢にも大きな意味合いがある。

この３つのことを聞くと普通のことだと思うかもしれません。けれども大切なのは、自分の課題が何か、どうしたら課題を克服できるのかを自分で考え、意識して行動するということです。そしてさらに重要なのは、自分が成長していくために、高い意識を持ち続けているかどうかだと感じました。大谷翔平選手が、不可能と思われる壁を次々と乗り越えていく秘訣は、ここにあるのではないかと感じています。

２０２４年も残り一か月となりました。子どもたちが一年を振り返り、自分の課題に向き合い、意識を高くもち続けて行動していくことができるように、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。（参考文献：佐々木亨著「道ひらく、海わたる　大谷翔平の素顔」（扶桑社）より）